

9月の予定表

1日（火）防災の日
12日（土）職務会（防災研修）
※家庭保育のご協力をお願いします。
17日（木）お弁当会
21日（月）敬老の日（休園）
22日（火）国民の休日（休園）
23日（水）秋分の日（休園）

★防火・消火避難訓練

10月の予定表

12日（月）スポーツの日（休園）
15日（木）お弁当会
17日（土）職務会（AM）
29日（木）ハロウィン

●保護者会主催イベント
※開催内容によっては、時期が変更になる場合があります。詳細は決まり次第お知らせします。

お知らせ

- ・徴収袋等は、事務所へ直接お渡し下さい。
- ・タブレットの押し間違いにご注意下さい。

スイミングスクール

（3歳児以上の希望者）

スイミングスクールと保護者との直接契約です。

※希望者は保育士へ問い合わせして下さい。

4日・11日・18日・25日

HAPPY
BIRTHDAY

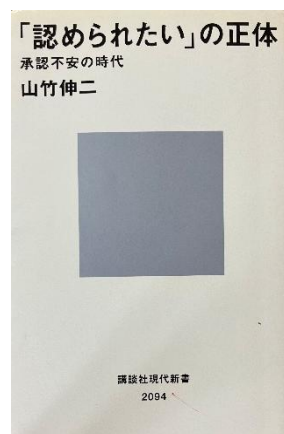
個人情報の為、削除いたします。

子どもの育ちを支える「承認」という経験

—「できた」だけではなく、「受け止めてもらえた」「支えてもらえた」も大切に—

子どもたちは、毎日の生活の中で、たくさんの経験を重ねています。「自分でできた！」といううれしい経験だけではなくありません。頑張ったけれどうまくいかなかった経験、誰かに助けてもらった経験、友だちに優しくしてもらった経験など、一つひとつの出来事が、子どもの心の土台をつくっていきます。

今回は、山竹伸二氏の著書『認められたいの正体——承認不安の時代』第3章「家族の承認を超えて」を手がかりに、「承認」という視点から、子どもの育ちについて考えてみたいと思います。



「認められたい」の正体-承認不安の時代-
山竹伸二・著 講談社現代新書

「承認」は、褒めることだけではありません

「承認」というと、「すごいね」「できたね」と褒めることを思い浮かべるかもしれません。もちろん、それも大切な承認です。けれども、子どもにとって大切なのは、それだけではありません。

- ・「気持ちをわかってもらえた」
- ・「困ったときに支えてもらえた」
- ・「失敗しても受け止めてもらえた」

そんな経験も、子どもにとって大切なものです。自分の気持ちや存在を受け止めてもらう経験を重ねることで、子どもは少しずつ、「自分はここにいていい」「自分は大切にされている」「困ったときには、人を頼ってもいい」という安心感を育てていきます。

そして、その安心感があるからこそ、子どもは「やってみよう」と一歩を踏み出すことができるのではないでしょうか。

「自分でやる」と「助けてもらう」

子どもの成長を考えると、「自分でできるようになること」はもちろん大切です。

だからこそ私たちは、すぐに手を出すのではなく、子ども自身が考えたり、試したりする時間を大切にしています。でも、「自分でできるようになるためには、助けてもらってはいけない」ということでもありません。

自分でやってみる。うまくいかなければ、助けてもらう。そして、またやってみる。

この繰り返しの中にも、子どもの自立につながる大切な経験があります。

自分でやってみることは「挑戦する力」を育てます。

そして、必要なときに助けてもらうことは、「困ったときには人を頼っていい」という安心を育てます。

人を頼ること人と支え合うことも、自立の一つの姿なのではないでしょうか。

ある日の「靴ひも結び」

ある日の戸外遊びの準備中、靴ひもを結ぼうとしていた子が、何度やってもうまくいかず困っていました。

保育者が「やってあげようか？」と声をかけると、「自分でやる」と答えました。

そこで、「ここを押さえてみようか」と声をかけながら見守り、最後のところだけ少し手伝うと、無事に結ぶことができました。その子の「できた！」という表情を見ながら、そこには結果だけではない、大切な経験があると感じました。

「困ったときに一緒に考えてもらえた」

「できない自分を急かされなかった」

「少し助けてもらいながら、自分でできた」

こうした経験が、「困ったときには誰かに助けてもらっていい」という安心につながり、次の挑戦を支えていくのだと思います。

「助ける」と「何でもやってあげる」は違います

ここで、私たち大人が大切にしたいことがあります。

「助けること」と「何でもやってあげること」は、同じではありません。

子どもが困っているとき、すぐに大人が答えを出したり、代わりにやってしまったりすると、子どもが自分で考えたり、試したりする機会が少なくなってしまうことがあります。

だからといって、「自分でやりなさい」と突き放せばよいわけでもありません。

大切なのは、子どもの力を信じながら、必要なところを支えることです。

「どうしたらできそうかな？」

「一緒に考えてみようか？」

「ここまでは自分でやってみよう」

「難しいところは手伝おうか？」

そんな関わりの中で、子どもは自分の力を使いながら、必要なときには人の力も借りることを学んでいきます。

・見守る。

・声をかける。

・必要なところだけ手を貸す。

その時々の子どもの姿を見ながら、大人が関わり方を変えていくことが大切なのだと思います。

承認は「何でも受け入れること」ではありません

もう一つ、大切にしたいことがあります。

子どもを認めることは、子どもの言うことや要求を、いつでもそのまま受け入れることではありません。

「そう思ったんだね」と気持ちを受け止めながらも、ときには「それはできないよ」と伝えることがあります。

子どもの気持ちを大切にすることと、すべての要求を受け入れることは別のことです。

子どもは、大人との関わりの中で……

・「自分はどうしたいのか」

・「相手はどう思っているのか」

「どうすれば一緒に過ごせるのか」

を少しずつ考えるようになります。

その経験を重ねながら、自分なりの判断や価値観を育てていくのではないのでしょうか。

「受け止めてもらうこと」と「何でもしてもらうこと」は違う。

そして、「助けてもらうこと」と「自分で考えなくてよいこと」も違う。

この違いを大切にしながら、子どもの育ちを支えていきたいと思います。

助けてもらった経験が、やさしさにつながる

子どもは、いつも自分の力だけで問題を解決できるわけではありません。

先生に助けてもらう。

友だちに手伝ってもらう。

家族に支えてもらう。

そうした経験を重ねることで、

「困ったときは人を頼ってもいい」

「人は自分を助けてくれる」

という安心が育っていきます。

そして、自分が助けてもらった経験は、いつか誰かに優しくする力につながることもあるでしょう。

優しくしてもらった経験が、次のやさしさにつながっていく。

そんな「やさしさの連鎖」も、子どもたちの育ちの一つなのだと思います。

「できた」だけではない、子どもの成長

私たちはつい、「自分でできた」「最後まで頑張った」「上手にできた」という姿に目を向けがちです。もちろん、それらは大切な成長です。
でも……

「失敗したけれど、やってみた」
「困ったときに、助けを求めた」
「誰かに助けてもらって安心した」
「優しくしてもらってうれしかった」



という経験も、子どもの心を豊かに育てていきます。
「何でも一人でできること」だけが自立ではありません。
人を頼ること。
人と支え合うこと。
そして、自分も誰かを支えられること。
それも、人と共に生きていくための大切な力です。

家庭と園で、子どもの育ちを支えていく

子どもは、家庭や園で、さまざまな人との関わりを経験しながら成長していきます。

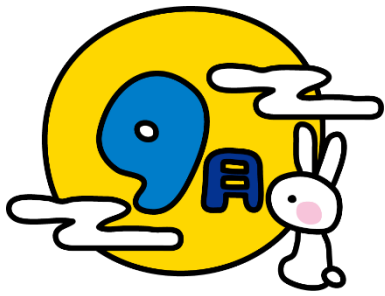
私たち保育者も、「自分で挑戦すること」だけでなく、「失敗すること」「助けてもらうこと」「誰かに優しくしてもらうこと」「自分が誰かに優しくすること」、そのすべてを子どもの育ちにつながる大切な経験として捉えていきたいと思います。子どもの力を信じて見守ること。困ったときには支えること。そして、できるようになったら、また一歩手を引くこと。

その繰り返しの中で、子どもは少しずつ、自分の力で考え、選び、行動することを身につけていくのだと思います。

「できた！」と喜ぶ瞬間だけでなく、
「助けてもらってうれしかった」
「わかってもらえて安心した」
「自分で考えてやってみた」

という一つひとつの経験を大切にしながら、これからも子どもたちの育ちを支えていきます。

子どもたちが、人とのつながりの中で安心し、支えられながら、やがて自分の力で歩いていけるように。
ご家庭と園で一緒に、その育ちを見守っていけたらと思います。



ひよこ・うさぎ組 クラスだより

9月の目標

ひよこ

- はう・立つ・歩くなど十分に体を動かして遊ぶ楽しさや気持ち良さを味わう。
- 喃語や発語を優しく受け止めてもらい、保育者とのやり取りを楽しむ。

うさぎ

- 身のまわりのことに興味を持ち、保育士に援助されながらやってみようとする。
- 保育者との仲立ちにより、他のこどもとの関わり方を少しずつ身につける。

おねがい

- 汚れても良い服での登園を！
- 登降園の際には、帽子を被りましょう。
- 日頃から爪がのびていないか
チェックをお願いします。
- 洋服やタオル、靴下など持ち物に名前の
記入をお願いします。





新しいお友達が
ふえました ✨



いっぱい
遊ぼうね～ 😊

まだまだ暑い日が続いてますね～。

体が動く喜びを十分に味わい、楽しみながら毎日元気に活動しているひよこ組、うさぎ組のお友達です。そして満足いくまで遊んだ後はお食事が待っています。

今回は、「食事の流れ」についてお伝えします。

食事への流れ



食事への流れ

●ハイハイ組は保育士と一緒に♪手洗いのうた♪をうたいながら洗う。
※食事への声かけをし、順次食べる意欲のある子がむかう。

手を拭く

●ペーパータオルを引っ張って手を拭き、丸めてゴミ箱に入れる。
※「キュッキュッ小さくな～れ」の言葉かけをする。



タオルとエプロンを取る



●ひよこ組
座った後、自分の顔写真を保育士と一緒に確認して取る。
●うさぎ組
顔写真を確認し、自分で取る。
※そのまま席に着こうとすると「あれ？何かないね」と一言かける



席に着く

- 椅子をひき、座ったらテーブルに近づく。
- ※援助が必要な場合は手伝う。
- マイコップを取る。

食事

- 「いただきます」の挨拶をした後、お茶を飲む。
(唾液の分泌を促す)



食事後

- 食事終了後、口内の清潔を保つ為
お茶を飲み、口を拭く。
- 「ごちそうさま」の挨拶をしたら、
席を立つ際に両手で椅子を中に入れる。



自分の濡れ物袋にタオルを入れる

- ひよこ
保育士と一緒に確認している
- うさぎ
自分で顔写真を確認し
入れやすいように
開口部を指で広げて入れる。



毎日、毎日、同じように繰り返し行うことで習慣化します。

「次は何をするか」先の見通しが分かるので安心して行動できるようになります。

この安心感が意欲や自信を持って(主体となって)生活する感覚を育んでいきます。最初から上手くできるのではなく、

「出来ない」「出来た!」の積み重ねの「体験」が
「自立する心」をつくっていくのです。



活動の様子





かんがる一組 クラスだよ



(9月の目標)

★自分から、あるいは言葉を掛けてもらうなどして、トイレに行き、保育者が見守る中で排泄する。

★友達のおよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。



おねがい

★汗をかきやすい時期なので、着替えを多めに持って来てください。

★持ち物はすべて名前の記入をお願いします。

★お弁当会でのご飯は、食べやすいように、おにぎり🍙 にしてください。

★帽子は、被って登園してください。



～おしっこの自立は体の成熟から～

体が成熟することで排泄が自立します。
成熟には個人差がありますから、
早い子もいれば遅い子もいて当然です。
子どもを見てなんとなく落ち着かない、
もぞもぞしている様子に気づいたら、
少しずつトイレに誘うようにすれば
いいでしょう。



家のトイレの囲われた雰囲気、こわいと感じる子

もいるかもしれません。嫌がる時は何がネックなのか考え、なるべくトイレに入りやすい雰囲気を

つくってあげましょう。怖がる様子がみられたら、ドアを開けたままにしたり、声をかけたりすると安心できることもあります。

かんがる一組さんは、朝のお集まり後・着替え・お昼寝前・
お昼寝後のタイミングでトイレに行く習慣をつけています♪
成熟して身体の準備ができてくると決まったタイミング以外にも
「おっこ！」と、自分からトイレに行く事も増えています😊

「おっこでた!!」と報告してくれる子ども達の誇らしげな顔が
とても可愛いです💖

活動中も午睡中も漏らさないで過ごすことができた！
…その1つ1つの小さな成功体験が自信に繋がり、布パンツで
過ごして、トイレで排泄する事に意欲をみせています♪



スリッパ並べる
のも上手だよ！



トイレに行ったら
手を洗うよ♪



お兄ちゃん・お姉ちゃんパンツに挑戦するお友達も増えています♪
遊びに夢中になってタイミングを逃したり、まわり道する日もありますが、
それも大切なステップ！

もし挑戦したい時や困りごとがあればいつでもご相談ください！
一緒に進めていきましょう★

エピソードでたどる 排泄の自立と保育 ～近道・まわり道～ 水野佳津子/著

「トイレの練習、どう進めたらいいのかな」と悩むことはありませんか？
この本では、日々のトイレの場面で出会った子どもたちのリアルな姿や、
“あるある”なハプニング等...クスッと笑えてホッとするエピソードが満載！

子どもたちのペースにどう寄り添えばいいのか、ヒントがもらえる一冊です♪



🐯 らいおん・🐳 くじら・🌈 にじ組クラスだよ

9月の目標

🐯 順番や交替のルールを知り、友だちと一緒に遊ぶ。

🐳 自由に表現するなかでさまざまな素材や用具の使い方を知る。

🌈 さまざまな素材に触れイメージしたものを形にしようとしたり、出来上がったものを使って遊びに取り入れていく。



ちょうちょやったの～



「ぴかん」どうしたの～？



やしがにおじいが、すきなんだ～



にじをうたってるところ

おゆうぎ会をとおして広がる子どもの世界

8月のおゆうぎ会では子どもたちがのびのびと表現する姿がありました。「楽しかった！またやりたい！」「今度はでっかいガラガラドンやりたい」と劇ごっこが始まっています。衣装コーナーから被り物を手に取り準備 OK！「先生役はわたしがやるよ！」とナレーションも完璧です。いつの間にか全部のセリフを覚えていて子どもたちだけで劇ごっこを楽しんでいます。

おゆうぎ会を振り返ってのお絵かきでは「こっちは〇〇ちゃん、そのとなりは〇〇くんだったよね」と思い出しながら筆をすすめていました。色付けにもこだわって夢中になって描いています。子どもたちの会話には、とっても幸せそうな時間が流れていました。



おなじのにする？



ちょっとドキドキ！するね！



うしろからも写真とってね～



ふあっしょんショー

この日は朝から楽しみにしていたファッションショー。
「わたし、ぴかん(ワタヤドカリ)にする！」「(どれかぶろうかな?)
……。」真っ白の角に背中はおオゴマダラ！

「うわぁ、ステキ！」「みんなかわいいね！」と観客席からの
手拍子もあってランウェイを歩く姿は自信満々でポーズ
ングも素敵にきまっていたました。

2回目、3回目とモデルさんが増えていき幼児組全員でラ
ンウェイを歩きました。



司会はにじ組のRさん。
BGMにのってふあっしょんショーのはじまりです。



みんなそろってハイポーズ

児童クラブと交流会



モササウルス、おさかなたべてるの



ちかづいていいよ！

楽つみ木交流会ですっかり仲良しになった幼児組さん。交わす言葉は少なくとも小学生の手元をじ〜っと見つめて観察タイム。そのうちに同じ型の積み木をそっと渡したり、隣に並べて、積んでを繰り返しながら積み木はどんどん形になっていく！大きく、高く、長く！向こうの方で「カシャーン」と崩れる音が「また、つくろう！」「聞こえているようで、「もう1回！」と子ども自ら気持ちの立て直しと考える力を積み上げているようです。

おたのしみ交流会ではオープニングの光棒ダンスステージにくぎ付けでみていた子どもたち。ゲームやくじ引きのお土産は魅力的な手作り玩具がいっぱいでした。一通り回ってお土産をみんなで見せ合いっこしたり、にじ組さんは最後のステージで飛び入り参加させてもらい元気いっぱいな歌声とダンスを披露していました。



人型の積み木もありますよ！



いろんな積み木で街ができた！



くじ引き なにかな？



初めての大きなステージ。きもちよかった～。



すごーい！おいしそう！



これとこれであってる？



チュロスとイチゴジュース、さいこーだね。

園での活動から見られる子どもの育ち

——保育所保育指針（5 領域）の観点より——

1. 表現する力の広がり

おゆうぎ会や劇ごっこ、ファッションショーでは、子どもたちが自分の思いやイメージを体の動きや言葉で表現していました。 幼児期は、感じたことや思ったことを自分なりの方法で表す力が大きく伸びる時期です。役になりきったり、ポーズを考えたりする姿は、表現の幅が広がっていることを示しています。

2. 言葉で伝え合う力の育ち

絵を描きながら友だちと当日の様子を思い出して話したり、劇の役割を相談したりする姿が見られました。 経験したことを言葉で整理し、相手に伝える力は、幼児期に大きく育つ大切な力です。言葉のやりとりを通して、思考力やコミュニケーション力が育っています。

3. 人と関わりながら活動する力

つみ木交流会では、言葉が多くななくても、相手の様子をよく見て同じ形の積み木を渡したり、並べたりする姿がありました。 幼児期は、友だちと一緒に活動する中で、協力したり、気持ちを調整したりする力が育つ時期です。崩れても「もう一回」と気持ちを立て直す姿は、社会性の育ちが表れています。

4. 試行錯誤しながら考える力

積み木を高く積んだり、形を変えたりしながら「どうしたらうまくいくか」を自分で試していました。 身近な環境に興味を持ち、試したり工夫したりする力は、幼児期の大切な育ちです。失敗しても繰り返し挑戦する姿は、問題解決の力の芽生えです。

5. 心と体の成長、自信の育ち

ステージで堂々と歌ったり踊ったりする姿や、ランウェイを自信をもって歩く姿が見られました。 幼児期は、体の動きがより自由になり、活動への意欲や自信が育つ時期です。自分の力を発揮しようとする姿は、心身の健やかな成長を示しています。

園での活動やあそびは、幼児期の大切な育ちにつながっています。 子どもたちが安心してのびのびと活動できる環境の中で、「表現する力」「言葉で伝え合う力」「協力する力」「試す力」「心と体の成長」といった基礎となる力が毎日の中で自然と育まれています。

風のうた児童クラブ



9月の予定

9月21日(月) 敬老の日

9月22日(火) 国民の休日

9月23日(水) 秋分の日

児童クラブのお集まり会の時、子どもたちから楽つみ木で保育園との交流会をしようと意見があり、8月4日公民館2階で「楽つみ木交流会」をしました。



楽つみ木交流会

公民館2階にて

これから楽つみ木交流会
はじまるよー

私は以前ブナ材で作ったつみ木が最高だと思っていましたが、風のうたに来て、楽つみ木で遊ぶ子どもたちを見ながら、そこはかとなく香るヒノキの香りに驚きと心地よさを感じました。つみ木に香りをまとわせるなんてびっくりです

交流会では寝転がった子どもたちにつみ木をシャワーのようにそっと振りかけていく「つみ木シャワー」で交流会が始まりました。



もっと高く
もっと高く！

作品と作品をつなぐ道



次々と自由につみ木で作品が出来上がり、出来上がった作品と作品をつなぐ道が作られ、一つの街のようになり、ひとしきり作った後、一人ひとりの作品説明を聞き、集合写真を撮って、終了しました。

子どもたちから「最後に、ライトを中にいれるんでしょう？」という声も聞こえ、荻野さんが来られた時のことを思い出しているのでしょうか、素晴らしい楽積み木交流でした。



いっしょに作った建物



仲良し兄弟作品



円形の神殿だ!!!



すてきな三人ぐみの
塔のよう・・・



子どもたちの作品で
いっぱい!





風のうたの街ができあがり、
みんなで記念撮影。

